

# eボンバー

サンプル

e bomber

*This novel is a true electronic book.*



©2005 Kouichi Hirata / bizmind representative director  
presented by dex-one.com

ご安心ください。このサンプルPDFは全画面で表示しています。

■作品を純粋にお楽しみ頂きたいと願ひ、この作品は、サンプル版・製品版とも「全画面表示」制作しています。デスクトップが見えなくなっていますが、キーボードの [ **esc** ] キーで解除できます。

## PDF 簡単操作ガイド

[ページ進む 

キーボード **右矢印キー**  (あるいは **return** キー)

[ページ戻る 

キーボード **左矢印キー** 

●本作品はサンプル版・製品版とも、プリントを許可しておりません。  
ご了承ください。

この小説はかつて、歴代著名作家を生んだコンテストにおき、最終審査まで進んだ作品である――。

01

200X年 ≪ セールスウェブ社 午後2時

奥歯にカロリーメイトの固まりが詰まっている。ストローをくわえ、スターバックスのカフェラテを飲み込んだ。一向に治らない口内炎を刺激しないように、奥歯めがけて一気に流し込む。

井野本順也はいつもの昼食を、三十四階に駆け上がるエレベータの中で済ませた。

目的のフロアに到着すると、開く扉の向こうで『株式会社セールスウェブ』のロゴマークが輝く。井野本は足早に受付ラウンジを横切り、『STAFF ONLY』のプレートが掛かるドアへ向かった。

ドアノブに備わるセキュリティシステムへ首からぶら下がったICカードを突っ込み、暗唱ボタンを押す。軽快な機械音とともに開く扉の向こうから、キーボードのタイピング

ノイズが固まりになって耳へ飛び込んできた。

ヘッドフォンマイクを装着した女性オペレータがフロア一杯に並び、その間をポロシャツとチノパンの男どもが騒々しくうごめく。スーツ姿は窓を背にする役員連中だけだ。ガラスの向こうでは、一筋の陽光が拡がる雲の厚みに飲み込まれ、消えた。

井野本は足早にオフィスを横断して、通路の奥にあるマシンルームのドアを開けた。パ―ティションで仕切られた五坪ほどの空間が、井野本を雑音から救う唯一のオアシスだ。壁面一杯に檜のごとく組み上げられた金属製ラックには、冷却ファンの唸りをあげてサーバーコンピュータ群が鎮座している。明日搬入される三十台目のマシンのために、これから環境を確保しなければならない。

インターネット上に契約企業の営業拠点を築き、彼らの顧客をオンラインで管理していくビジネスプランが、株式会社セールスウェブの事業を急発展させていた。

営業情報の共有化や調査・分析をアウトソーシングする形態が、ようやく日本でも普及してきたといえる。そうした企業の命綱ともいえる顧客データを取り扱うセールスウェブ社において、井野本は肝心要のデータベースシステムの管理を任されていた。

カップから伸びるストローをくわえながら、井野本はモニター切替機で各コンピュータ

の監視をはじめめる。

五台目のサーバーコンピュータにモニター画面を切り替えたとき、カフェラテを支える井野本の前腕が落ちた。口にくわえたままのストローが、黄土色の飛沫をブラウン管へ撒き散らす。

——や、やられた。

椅子を引き寄せ、瞬きももどかしくモニターに食い入った。マウスを持つ手が小刻みに震える。矢印の形をしたポインターが画面の左端に動いた。半時間ほど前までは存在しなかった奇妙なアイコン——時計を支えるようにして三つの円筒が横倒しに重なる画像が、そこにある。マウスの矢印は、突然現れたその絵の上で止まった。

『残り二十二時間四十七分でお陀仏だよ！』

アイコンの下に開かれたウィンドウの文字が、井野本に事の重大さを知らしめた。

——システムに侵入された……。

井野本は反射的にメールソフトを立ち上げ、不審な電子メールを受信していないかを調べる。新着メールの中から『システム管理者の君へ！』と綴られたタイトルに目がとまった。送信者の特定が困難なフリーメールアドレスを使用していることからみて、悪意ある

野郎の挑戦状と受け取れる。

ウイルスチェックに反応しなかったことを確認し、マウスボタンを二回クリックした。画面中央に文字が拡がる。

《システム管理担当のオタク。お仕事ごころうさま。実は、誠に愉快なお知らせがあります。このコンピュータシステムは、当方が乗っ取りました。時限爆弾プログラム『eボンバー』を仕掛けています。あと一日とかからずに、オタクんちの全システムは消去されちゃいます。大切なお客様の情報がなくなっちゃうんです。

さあ、どうしましょう。

答えは簡単です。オタクが頑張つて、この複雑な仕掛けを解読し、残り時間以内に爆弾プログラム『eボンバー』をストップさせられるか。もうひとつは、当方がオタクに爆弾プログラムを停止する方法を教えるか。

でも、そう簡単にはいきませんよ。当方からのお願いを聞いてくれることが条件ね。わかりましたか。

おや、困っちゃいました？ では警察へ通報します？

それは出来ないでしょう。オタクの会社の事情から、今この大事な時期に警察沙汰は避けたいですよ。来年一月、ジャスタックへ上場するんでしたっけ。そのためには、万全なセキュリティが前提となるビジネスですものね。どこの馬の骨かわからん者に破られるような防衛技術じゃ、新たな株主さんは集まりませんからね。

とにかく賽は振られました。残り時間は爆弾チャンが画面に表示してくれますので、どうぞご安心を。

あ、そうそう。間違つてもシステム自体を停止するなど考えてはいけません。シャットダウン時に『eボンバー』は強制実行する設計になっています。そうです。OSが停止するとともにプログラムは稼働命令を発信し、次回のシステム起動時には大事な大事なお客様データは消え去っているのです。いいですね。システムの停止は自殺行為ということですよ。いまからでは抜本的なセキュリティ変更を行う時間はありませんよ。セキュリティを強化する前に、『eボンバー』を止める方が先決でしょう。

それではしばらくして、メッセージを発信します。そこで当方の具体的なお願いを申し上げますから、よろしく。

最後に念を押しておきましょう。

もうオタクんちのシステム構成やインフラ環境は当方の手中にあります。いつでもブツ壊してあげますよ。

……ということで頑張ってください。今日は徹夜だね。

尚、このメールは自動的に消滅しますよ。早くプリントアウトしなきゃね。

十一月二十九日、午後二時十三分。キラー・コワスノスキーより》

予感があった。

十日ほど前より、外部から社内ネットワークへの強烈なアタックが確認されている。井野本が毎日調査する通信ログの中に、その形跡が残されていた。

ただセールスウェブ社が構築したシステム・セキュリティは最新のクラッカー対策が施されている。仮によそ者が社内ネットワークへ侵入してきたとしても、社員ですら接続を許されない深い階層に顧客データベースを格納し、保護している。

したがって十分な安全対策を自負する会社側は、井野本の管理日報で知ったクラッカー攻撃に強い興味を示した。早急に井野本へ日々の状況報告書を義務づける。会社の偉いさん方は実践的なセキュリティ計測として、ちよūdōよいサンプルくらいに考えていたのだろう。

ところが、上層部が持つ自社システムへの過信をあざ笑うかのように、ウイルスプログラムが犯人によってセキュリティゾーンの奥深くへ仕込まれてしまったのだ。

深く息を吐いた井野本は、『残り二十二時間四十五分でお陀仏だよ！』と時を減らすモニター画面からしばらく目を離せなかった。

あなたは、高鳴る鼓動を抑えなさい。読み切れるか  
これが本当の電子書籍・小説

**絶賛発売中!!**



## eボンバー

平田 幸一

Kouichi Hirata

2005年11月3日 サンプル版

PDF編集・発行所

有限会社バディライヴ デックスワン事業部

〒162-0821 東京都新宿区津久戸町4-1 ASKビル2F

tel.03-3260-7461 fax.03-3260-7552 <http://www.dex-one.com/>

©2005 Kouichi Hirata / bizmind representative director

illustr by D.K

produced by dex-one.com

Adobe Acrobat Reader®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。本書の内容、画像一切の複製複製(コピー)・転載・転訳など著作権に関わる行為は、これを固く禁じます。

禁無断転載 production in Japan